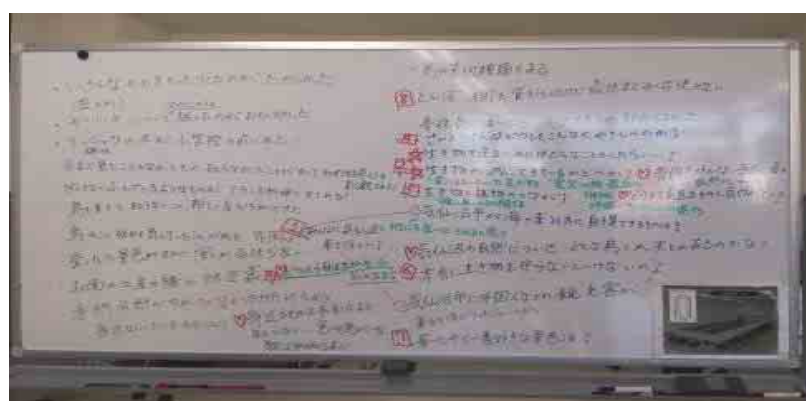


これまでにわかったこと・課題

気仙沼図書館で地域価値発見：フィールドワークと哲学カフェ 「気仙沼てつがく探検隊」

開催日時：平成28年10月30日（日）9:30～16:00 開催場所：気仙沼図書館および周辺地域、気仙沼中央公民館

学年を越えて子どもたちが集まり、地域の自然と文化、歴史、産業を「フィールドワーク」で体験し、自分たちの住んでいる場所の価値と問題を見つめ直し、これからどのような地域社会をどのようにつくっていけばよいかを「哲学カフェ」で話し合った。対話を通し、見出した自らの関心・探究課題について、「図書館」で個々人が資料の探索を行った。



フィールドワーク：中央公民館に集合、オリエンテーションの後、車にて仮設図書館へ。そこからスタート。双眼鏡、ルーペ、プラスチックカップ、ジップロックを各自に配付。2班に分かれ1名が筆記係としてクリップボードのマップに気づいたことを記録。生態学の専門家であるファシリテーターが歩きながら、解説+問いかける。子どもたちは自分たちの眼と感覚でさまざまな発見を繰り返した。

哲学カフェ：テーマに沿って議論を進めているうちに、「身近にある」と「身近に感じる」とは違うことに、みな気づかされた。例えば、家族や友達、電車は「身近に感じる」が、「海」や「船」は身近にあっても「身近に感じない」子どもたちが多かった。「どうしたら身近なものに気づくようになる？」というテーマそのものが正確でなかったことも指摘され、それぞれに問題意識を高めて終了した。

陸前高田グローバルキャンパスシンポジウム

開催日時：平成28年1月21日、22日 開催場所：陸前高田市コミュニティホール

さまざまな大学がこれまで陸前高田で行ってきた活動を報告し共有する公開シンポジウムで、気仙沼での実践を紹介しながら今後陸前高田でも活動を行っていくことを発表した。市民や大学関係者に実践を認知してもらえたと感じている。

<成果と今後の課題>

これらの取り組みにより、地域における人々のコミュニケーションを促し、「身近」にある資源を活かした教育活動とコミュニティ再形成のきっかけを、地域の教育委員会や住民に提示した。参加していた子どもたちだけでなく、大人自身もその場の体験に興味を持って参加できたことが今回の成果へとつながった。しかし、地域全体へこの影響を広め、活性化させるためには一度限りのイベントではなく、今後も継続的に行なっていかなければならない。繰り返しこのような場を持つことによって、この活動の主体を研究者側から地域の教育委員会や住民へと移譲していき、そしてそれを活発に維持していくため支援することが必要である。

